

(仮称) 町田市食品ロス削減推進計画(案)について補足説明資料

1. ごみに占める食品ロスの割合について

◎2021年度食品ロスの割合=16%

→年に2回実施するごみ袋の開封調査より算出

【ごみ袋開封調査(組成調査)とは】

- ・家庭から排出されるごみの開封調査
- ・排出されるごみの組成比率の把握のために実施
- ・季節や地域による調査の平均化のため、年に2回、複数地域の検体をピックアップして調査を実施。
- ・1回の調査で1検体200kg、12検体(燃やせる6、燃やせない6)を調査

※1回あたり2,400kg。環境省の手順書では300kg~400kgの試料を採取することが目安とされている。

◎2021年度食品ロス発生量の推計

各ごみの発生量は、組成調査の対象である「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」の総量に、調査の結果算出された割合をかけ合わせて算出。

(例) 2021年度の食品ロスの発生量

=燃やせるごみ、燃やせないごみの総量72,131t × 16% = 約11,000t

2. 本計画における削減目標について

本計画では、以下の目標を掲げている。

- ① 2025年度までに「市民から出る生ごみ(食品ロス)2,000トン削減(2019年度比)」
- ② 2025年度までに「事業者から出る生ごみ(食品ロス)500トン削減(2019年度比)」

→東京都計画及び第2次町田市一般廃棄物資源化基本計画における「2030年までに食品ロス量の50%削減(2000年度比)」の目標に準拠

本計画の目標は、アクションプランで掲げている目標と同義のものとなります。

(参考) アクションプランにおける2025年度までのごみ種別ごとの削減量・資源化量の目標

	削減量	資源化量
・生ごみ	2,000 t	
・容器包装プラスチック	1,000 t	200 t
・古紙		500 t
・事業系ごみ	1,000 t	
・その他	1,500 t	
計	5,500 t	700 t

※アクションプランでは、生ごみ全体を対象として削減量を設定しているが、削減目標は食品ロスの削減によって達成する前提としている。

※本計画における事業系から出る生ごみ500トン削減は、事業系ごみの削減目標1000tの内訳(紙500t、生ごみ500t)に拠る。

2021年度可燃ごみ及び不燃ごみに占める食品ロスの割合

